

# ビートルズの英語

ザ・ビートルズ・クラブ 著

You know, a lot of John's musical influence has got to be traced back to Julia and, of course, mine would be my dad.

~Paul McCartney

ジョンの音楽的影響の多くは母親のジュリアまでさかのぼるものなんだよ。僕の場合は父親だ。

~ポール・マッカートニー

© TetsuRo Hamada



リバプールのウールトンにあるポールの育った家。ポールが14歳のときに母メアリーが他界。以降は父ジムがポールとマイク兄弟を男手ひとつで育て上げた。ジムはジャズ・バンドのトランペッターでもあった

## 発言の真実

ジョンと自身の音楽的ルーツに触れた1986年のポールの興味深い発言。ポールは父親のジムのピアノを聴くのを楽しみにし、やがて独学でピアノやギターを覚えた。ジョンは母親からバンジョーを教わった。ポールの2012年の『キス・オン・ザ・ボトム』には、少年の頃、父親が弾くピアノから覚えた曲が多く収録されている。ポールは、「こうした音楽がジョンと僕を結びつけた」と興味深い発言もしている。ポールがジョンに会った頃、ジョンはよく、“Wedding Bells Are Breaking Up That Old Gang Of Mine” や “Ramona” のような古い歌を歌っていたという。「ジョンはお母さんに教わったんじゃないかな」とポール。

## 使えるひとくち英語表現

### influence (影響)

My biggest influence in life is, of course, the Beatles.

(私の人生での最大の影響は、もちろん、ビートルズよ)

have got to (= have to ~ [~しなければならない])

trace back to ~ (~にさかのぼる)

mine (= my influence)

I was very impressed by Paul playing “Twenty Flight Rock.” He could obviously play the guitar. I half thought to myself, “He’s as good as me.” I’d been kingpin up to then. Now, I thought, “If I take him on, what will happen?” It went through my head that I’d have to keep him in line if I let him join. But he was good, so he was worth having. He also looked like Elvis. I dug him.

～John Lennon

ポールの「トゥエンティ・フライト・ロック」には感心させられた。あいつは確かにギターがうまかった。俺はぼんやりと考えた。「こいつ、俺と同じくらいうまいぞ」って。そのときまで、俺はバンドのリーダーだった。俺は考えた。「あいつと組んだらどうなるだろう」。もしポールを仲間に入れたら、俺はあいつをいつも手なずけなきゃならないかもしれないと考えた。でも、ものすごく上手だから仲間に入れる価値はあった。それに、エルビスにも似ていた。要するに俺はあいつに惚れたんだ。

～ジョン・レノン

## 発言の真実

1967年にポールとの出会いを回顧しての一言。ジョンの決断は正しかった。ジョンは、「俺が音楽業界にした大きな貢献は、ポール・マッカートニーを発掘したことだ」とも語っている。ビートルズ在籍時に過去を語り、相手を褒めるのはジョンにはめずらしい。それだけに、ジョンは正直に当時の自分の心境を語っていると言える。このふたりの歴史的な出会い——1957年7月6日——によって、ビートルズという伝説のバンドが誕生することになる。ジョン16歳、ポール15歳の夏だった。レノン＝マッカートニーはロックが単なる若者の流行の音楽ではなく、永久のクオリティを持っていることを証明した最初のロックンローラーと言えるのかもしれない。

## 使えるひとくち英語表現

worth～ ing (～する価値がある)

Let's go to the cinema next Saturday. That movie is really worth seeing.

(来週の土曜日、映画に行こう。あの映画は見ないと損だよ)

be impressed by～ (～に感銘を受ける)  obviously (明らかに)

kingpin (中心人物、親玉)  take～ on (～を雇う・引き受ける)

go through my head that～ (～が頭をよぎる)

keep～ in line (～を行儀よくさせる)  dug (dig [好きだ] の過去形)

It came in a vision—a man appeared  
on a flaming pie and said unto them  
“From this day on you are Beatles with  
an A.” ~John Lennon

幻が見えたんだ。男が燃え上がるパイの上に乗  
って現れ、メンバーたちに言ったんだ。「君た  
ちは綴りにAの入ったビートルズだ」ってね。

~ジョン・レノン

© TetsuRo Hamada



1957年7月6日、ジョンとポールの運命的な出会いの舞台となった、リバプールのセント・ピーターズ教会。手前の共同墓地にはビートルズ・ソングの主人公と同名の「エリナー・リグビー」の墓がある

## 発言の真実

友人ビル・ハリーが編集長である地元リバプールの音楽紙『マー  
ジー・ビート』（1961年7月発行）に、ジョンが寄稿したビートル  
ズの起源についての言葉。ジョンは1964年1月、アメリカでアルバ  
ム『ミート・ザ・ビートルズ』（*Meet The Beatles!*）が発売される  
際のプロモーション・インタビューでもこれを引用している。よほ  
ど、気に入っていたのだろう。ポールもこの発言を気に入ってお  
り、自身の1997年発表のアルバムを『フレイミング・パイ』  
（*Flaming Pie*）と名付けている。ちなみに、最初に結成したバンド  
にジョンがつけた名前は、「ブラックジャックス」、次が「クオリー  
メン」で、これが母体となりビートルズに発展していく。ちなみ  
に、Beatlesとは、beetle（カブトムシなどの甲虫）とbeat（音楽用  
語の「ビート」）を組み合わせたジョンの造語。

## 使えるひとくち英語表現

### vision (幻覚・幻視; 洞察力)

Why was Gary chosen to become a manager? He doesn't have any vision at all.

(何でギャリーが部長に選ばれたんだ？ 彼はヴィジョンなんて全然ないのに)

### flaming (燃え立つ、光り輝く)

Our best work was never recorded, you know. We were performers in Liverpool, Hamburg and round the dance halls, you know, and what we generated was fantastic. ~John Lennon

俺たちの最も優れた仕事は録音されることがなかった。俺たちはリバプールやハンブルクで演奏し、ダンスホールを回るライブ・バンドで、俺たちが生んだ音楽はすばらしかった。 ~ジョン・レノン

© TetsuRo Hamada



デビュー前後、ビートルズが300回近くも出演したという、リバプールのキャバーン・クラブ。1973年に地下鉄工事のため取り壊されるも、1984年に再建された

## 発言の真実

1962年のデビューから1970年の解散までの決して長くない活動期間のなかで、今もなお売れ続けている楽曲を数多く世に送り出したビートルズだが、現在の音源よりすばらしいサウンドが聴けなかったのは残念極まりない。アマチュア時代に酒臭いクラブで響かせたワイルドなロックンロールほどの高揚感は、その後ジョンには感じられなかったのか。ちなみに、1952年にチャートが始まって以来、ビートルズは最もシングルが売れたアーティストであると、2012年に英オフィシャル・チャート・カンパニーが発表した。ビートルズは17枚のNo.1ヒットで、より活動期間の長い、エルビス・プレスリー（活動期間21年）、クリフ・リチャード（1958年デビュー。現役）を抑えての1位となった。

## 使えるひとくち英語表現

What A does is B (Aするもの〔こと〕は、Bである)

What we have achieved is really something. Let's keep on working on it.

(我々が達成したのはほんとうにすばらしいことだ。これからもこの調子でいこう)

※ achieve (成し遂げる) ※ work on (取り組む)

record (録音する)  performer (演奏者)

generate (生み出す)  fantastic (すばらしい、すてきな)

When the Beatles were depressed, thinking, “The group is going nowhere, and this is a shitty dressing room...,” I’d say, “Where are we going, fellas?” They’d go, “To the top, Johnny!” And I’d say, “Where’s that, fellas?” And they’d say, “To the toppermost of the poppermost!” and I’d say, “Right!” Then we’d all cheer up.

~John Lennon

ビートルズが意気消沈して、「バンドは停滞してるし、楽屋もひどいな……」というようなことを考えていたとき、俺は「みんな、俺たちが向かう先は？」と訊くんだ。そうすると奴らは「頂点さ、ジョニー！」と答える。俺が「それはどこだ？」と訊くと彼らは「ポップ界の頂点さ！」と言い、そして俺は「その通りだぜ！」って。それで元気が出るのさ。

~ジョン・レノン

Words from  
and about the **Beatles**

## 発言の真実

ビートルズの魅力のひとつは、全員が地方都市だったリバプールの出身であり、作られたバンドではなく、自分たちで結成し、下積みを経験してデビューした自然発生的なグループだったことだ（リンゴだけはデビュー・シングルのレコーディング時に加入したが、それもジョージの強い推薦で加入した）。2枚目のシングル「プリーズ・プリーズ・ミー」(“Please Please Me”)より、チャートNo.1を獲得し続け、順風満帆に見える彼らにも何度かの危機があった。そのたびに彼らはこの言葉のように檣を飛ばし、4人で乗り切ってきた。自分たちに言い聞かせることで、彼らが本当に頂点に上り詰めたというのが、この発言の教訓かもしれない。

## 使えるひとくち英語表現

go nowhere (どこにも行き着かない)

This plan is going nowhere. Let's scrap it and make a new one.  
(この計画はどうしようもない。やめにして、新しいものを作ろう)

※ scrap (廃棄する)

depress (意気消沈させる)  shitty (ひどい、粗悪な [俗語])

dressing room (楽屋、化粧部屋)  fellas = fellows (奴ら)

toppermost (topper とは、てっぺん [top] にいる者。

つまり、toppermostは「最も高いところまで上り詰めた者」という感じの造語)

poppermost (こちらにもpop=popular[人気のある]という単語を強めて、「最も人気のある」という感じを出すための造語)

cheer up (元気を出す)

I didn't like the sound. Groups of guitars were on the way out.

~ Dick Rowe

サウンドが好きじゃなかった。ギター・バンドはもうすたれかかっていたし。

~ディック・ロウ

**MERSEYSIDE'S OWN ENTERTAINMENTS PAPER**



The name for  
Records, Amplifiers  
Transistor Radios  
Also Pianos  
and Gramms

MANOYER STREET, LIVERPOOL 1  
Telephone: 8094 4714

# MERSEY BEAT

**NEMS**  
WHITECHAPEL AND GREAT  
CHARLOTTE STREET  
THE FINEST RECORD SELEC-  
TIONS IN THE NORTH

Open until 6-7 p.m. each day  
(Thursday and Saturday 6-7 p.m.)

Vol. 1 No. 13      JANUARY 4-18, 1962      Price THREEPENCE



**Beatles Top Poll!**  
FULL RESULTS INSIDE

JOHN LENNON
GEORGE HARRISON
PAUL McCARTNEY
PETE BEST

IN THIS ISSUE	POLL RESULTS	WALTON LANE SOCIAL CLUB
<b>CLUBLAND</b>	1 JACK O' CLUBS 2 N.U.R. No. 5 SOCIAL CLUB 7 ODD SPOT OPENING	Proprietor: Mrs. Ada Taylor THE PULSE OF CLELAND ALWAYS A WELCOME FOR MEMBERS AND FRIENDS
<b>PERSONALITIES</b>	1 ALAN CLARK 2 JIM GRETTY 3 JERRY LONDON	<b>N.U.R. No. 5 Social Club</b> DEANE ROAD, LIVERPOOL Secretary: Mr. J. O'NEILL THE HAPPY CLUB ONLY THE BEST IS GOOD ENOUGH FOR OUR MEMBERS AND FRIENDS
<b>JAZZ</b>	1 LEO RUTHERFORD 2 MERSEYSIDE JAZZ	<b>MERSEYSIDE CLUBS ASSOCIATION</b> Headquarters: Walton Lane Social Club THE BEST AUDITION SERVICE ON MERSEYSIDE OPEN TO ALL BONA FIDE CLUB REPRESENTATIVES Every Sunday 1-30 p.m. to 4 p.m. Secretary: Mr. S. McGeehan
<b>FEATURES</b>	1 EDITORIAL 2 NEWS TOP TEN	
<b>ALSO</b>	1 ARTISTS DIRECTORY 2 SCAPERS 3 MERSEY GOVERNMENT	

**Ivamar Promotions**  
with all readers

**A HAPPY DANCING NEW YEAR**  
and will ensure this at  
**THE JIVE HIVE**  
EVERY WEDNESDAY AND SATURDAY

**TIP TOP VARIETY**  
**JIM GRETTY**  
V.A.F. S.A.A.  
also **THE JIM GRETTY VARIETY AGENCY**  
Articles and Books supplied for all occasions  
Telephone: 1527 Park 548

**PEAK PROMOTIONS**  
WISH ALL READERS A HAPPY NEW YEAR  
See these fabulous groups in 1962 at  
WOLYDALE HALL  
BLACK HILL  
COLUMBIA HALL, WIDNES

**BILLY KRAMES AND THE COASTERS**  
**THE CORNELI**  
**THE SALGOTTES**  
**THE DENHOGS**  
**THE M.J.A.**

『マーギー・ビート』は、1961年にジョンの友人ビル・ハリーが創刊したリバプールの音楽紙。リバプールに流れる「マーギー川」に由来しており、後にビートルズをはじめとするリバプール出身のバンドをこう称するようになった

## 発言の真実

1962年1月1日、ビートルズをオーディションで落としたデッカ・レコード担当者ディック・ロウの言葉。逃した魚は大きく、ロウは後々まで後悔することとなるが、ジョージ・ハリスンの口添えで、デッカはローリング・ストーンズと契約し、結果的に「ギター・バンド」の時代が続くことを認めることとなる。ビートルズ成功後、ポールはディック・ロウに対して「今頃、自分を蹴ってるんじゃないかな」、ジョンは「死ぬほど蹴飛ばせばいい」とジョークを言っている。しかし、本当の理由は、ビートルズと共に候補だったブライアン・プール&トレメローズのほうが、デッカの所在地に活動拠点が近く、仕事がしやすいと判断したためと言われている。

## 使えるひとくち英語表現

on the [one's] way out (すたれかかって)

Why don't you buy a smartphone? Regular cellphones are on the way out.

(何でスマートフォン買わないの？ 普通のケータイはもう時代遅れだよ)

※ cellphone (携帯電話)

# Well, I don't like your tie for a start.

~ George Harrison

そうだな、まずあんたのネクタイが気に入らないな。 ~ジョージ・ハリスン

George Martin : Listen to this tape playback and tell me if there's anything you don't like.

George Harrison : Well, I don't like your tie for a start.

ジョージ・マーティン: この録音を聴いてみて、何か気に入らないことがあったら言ってごらん。

ジョージ・ハリスン: そうだな、まずあんたのネクタイが気に入らないな。

© TetsuRo Hamada



ビートルズがほとんどの曲をレコーディングした、ロンドンのアビー・ロード・スタジオ。当初は「EMIスタジオ」という名だったが、ビートルズのアルバム『アビー・ロード』の影響で改名

## 発言の真実

1962年、パーロフォンのオーディション（レコーディング・テスト）にて。機材トラブルなどで演奏が思ったようにいかないこともあり、ナーバスになるビートルズに対し、「何か気に入らないことがあったら言ってごらん？」と優しくたずねるプロデューサー、ジョージ・マーティン。ここで一発かましておかねば田舎もんとナメられてしまうと、ジョージ・ハリスンがお見舞いしたギャグがこれ。「あのとき、ジョンとポールには白い目でにらまれたね」とジョージはのちに回想しているが、マーティンのほうは、たいそう気に入り、このバンドのことをもっと知りたくなったという。

## 使えるひとくち英語表現

### for a start (手始めに、まず)

This plan will do for a start, though we might have to make some changes later on.

(とりあえず、この計画でいいでしょう。あとでちょっと変更があるかもしれないけれど)

※ do (用が足りる、役に立つ) ※ later on (あとで、やがて)

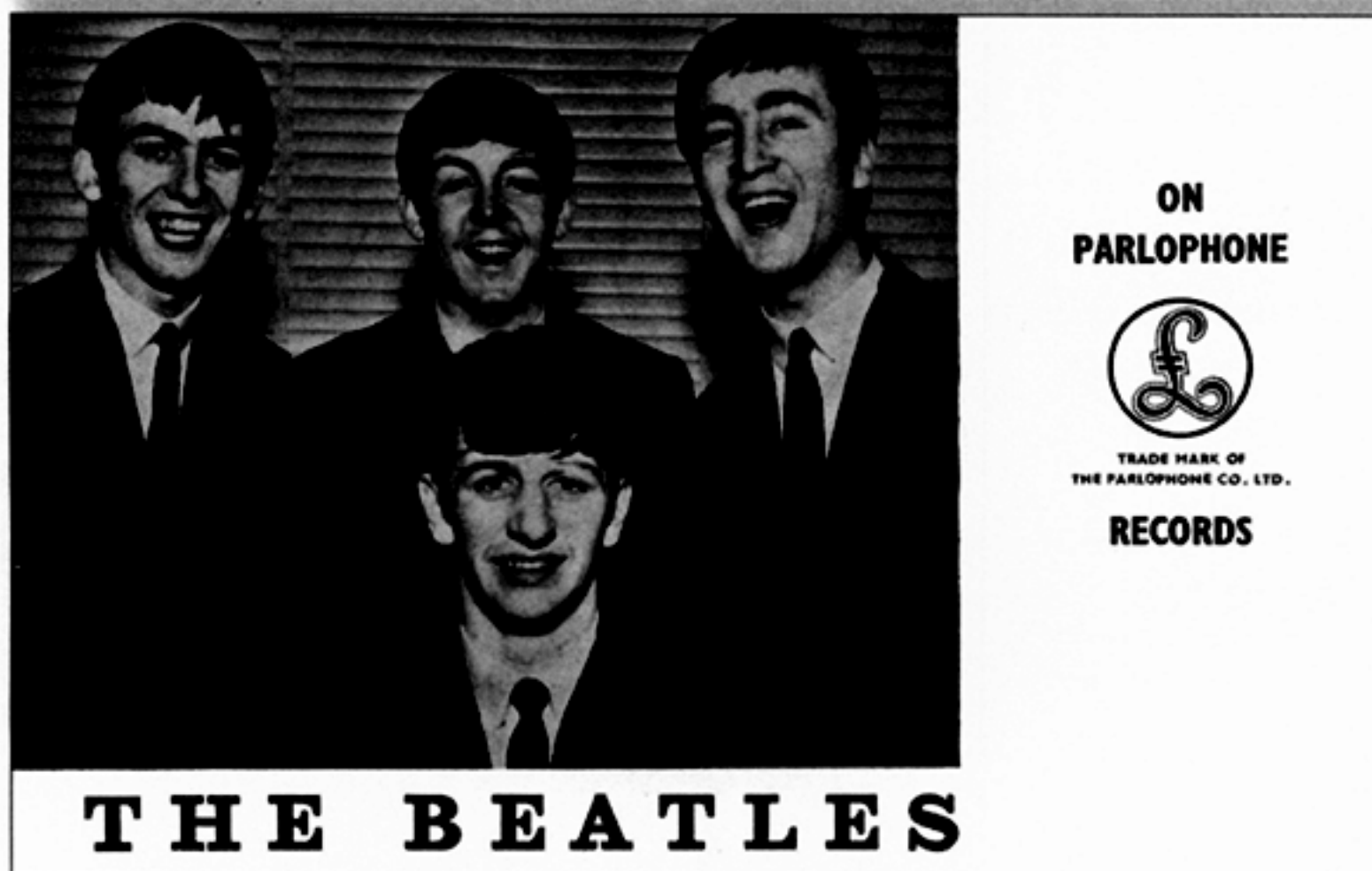
### playback (再生)

The fans loved Pete Best. Why get an ugly-looking cat when you already have good-looking one?

~Ringo Starr

ピート・ベストはファンに愛されていた。ルックスのいいメンバーがいるのに、何のために醜男を入れなければいけないんだ？

~リンゴ・スター



ビートルズが所属する、EMIレコード傘下のパーロフォン・レーベルのプロモーション用カード。デビュー直後の4人。リンゴがリーゼントを無理矢理下ろして、他の3人に合わせている

## 発言の真実

デビュー・シングルのリコーディングの際、リンゴはビートルズのデビューが決まってからバンドに加入し、片やピート・ベストはデビューが決定していたにもかかわらずクビになった。そのことで、リンゴは後々まで非難を受けることがあったというが、リンゴはビートルズ加入前から、ロリー・ストーム&ザ・ハリケーンズのメンバーとして、地元ではスターだった。そのプライドもあり、ピートとドラムの腕を比較されることを極力嫌うリンゴ。だからこそ、この発言の裏には、「自分はルックスが良くないのにバンドにスカウトされたのは、腕がいいからだ」という気持ちも入っているのだろう。1962年の発言。

## 使えるひとくち英語表現

already (すでに、それまでに)

When I was born in 1971, the Beatles had already split up.

(私が生まれた1971年には、ビートルズはもう解散していた)

※ split up (分かれる、解散する)

why get (= why would you get)    ugly (醜い)

cat (人、男[俗語])

We reckoned we could make it because Paul wasn't quite strong enough, I didn't have enough girl-appeal, George was too quiet, and Ringo was the drummer. But we thought that everyone would be able to dig at least one of us, and that's how it turned out.

~John Lennon

俺たちは成功できるだろうと思っていた。ポールは男らしさが足りないし、俺は女ウケがあまりよくない。ジョージは静か過ぎるし、リンゴはドラマーだ。でもみんな、4人のうちの誰かは気に入るんじゃないかと考えていたら、実際そうだった。

~ジョン・レノン

Words from  
and about the **Beatles**

## 発言の真実

イギリスでは4番人気だったリンゴが、アメリカでは「リンゴを大統領に」という運動が起こるほど人気だったりと、ビートルズほど4人の個性が際立っていたバンドには、なかなかお目にかかれない。それに、ビートルズほどメンバーが集まったときの強烈なインパクトを持ち合わせたバンドにもなかなかめぐりあえない。プロデューサー、ジョージ・マーティンいわく、「彼らが集まると、魔法が起こるような、ほとんど核分裂でも起こるような感じがあった。彼らは難攻不落の要塞の4つの角のようだった。4人は絆で結ばれていて、それが彼らをあれほどタイトなバンドにしたのだと思う。そして、彼らひとりひとりが自分の仕事の達人になった」。

## 使えるひとくち英語表現

turn out ~ (結果的に~になる)

Everybody thought Jane was lying, but her story turned out [to be] true.

(みんなジーンはウソをついていると思っていたんだけど、彼女の話は本当だということがわかった)

reckon (考える、判断する)

make it (成功する)

dig (好む、好きである)

No. I've been bitten once, I'm not like that. I don't even know who you are. We're going to have Andy White, thank you very much.

～George Martin

いいや。私は一度痛い目に遭っている。私は同じ失敗を繰り返す人間ではない。君が誰かもわからない。アンディ・ホワイトを起用するのでけっこうだよ。

～ジョージ・マーティン



ビートルズのデビュー・シングル「ラヴ・ミー・ドウ」。イギリスで発売された初版のシングル（写真）はリンゴのドラム・バージョンだったが、アルバムにはスタジオ・ミュージシャンのドラムが採用された

## 発言の真実

ビートルズは3度のデビュー・シングル・セッションを行っており、1度目にドラムが弱いと考えたジョージ・マーティンは3度目、つまり「本番」にスタジオ・ミュージシャン、アンディ・ホワイトを予約していた。片や、「ドラムが弱い」と聞いてしまったビートルズは、かねてより気になっていたリバプールNo.1ドラマー、リングオをスカウトする。リングオは2回目のレコーディングから参加したが、リズムを工夫するためにマラカスを使ってドラムを叩いたりしたことで墓穴を掘った。そして本番のレコーディングでリングオはドラムではなくタンバリンを担当することとなった。そのとき、マーティンがビートルズに伝えた言葉がこれ。リングオは今でもこのことを根に持っており、「地獄のようだった」とそのときの気分を語る。マーティンは「すまなかった」と平謝り。

## 使えるひとくち英語表現

not even～（～ですらない）

What's the rush in marrying Billy? You don't even know what he does for a living.

（何でそんなにビリーとの結婚を急ぐんだい？ 彼が何の仕事をしているかも知らないんだろ）

※ rush（急ぐこと）

bitten (bite [かむ、かじる]の過去分詞形)

# The first album was recorded in one long twelve-hour session. ~ John Lennon

ファースト・アルバムのレコーディングは、  
12時間ぶっとおしのセッションだった。 ~ジョン・レノン

The first album was recorded in one long twelve-hour session. We were in a recording studio for the first time in our lives, and it was done in twelve hours because they wouldn't spend any more money. That record tried to capture us live and was the nearest thing to what we might have sounded like to the audiences in Hamburg and Liverpool. Still, you don't get that live atmosphere of the crowd stomping on the beat with you; but it's the nearest you can get to knowing what we sounded like before we became the "clever" Beatles.

ファースト・アルバムのレコーディングは、12時間ぶっとおしのセッションだった。俺たちは人生で初めてレコーディング・スタジオに入り、彼ら（レコード会社）はそれ以上金をかけたがらなかったの、12時間で済ませた。俺たちを生で捉えようとしたレコードで、ハンブルクやリバプールのオーディエンスが聴いていた音に可能な限り近いものになっている。とはいえ、客がビートに合わせて足踏みするような、ああいうライブの雰囲気をつめることはできない。でも、俺たちが「賢い」ビートルズになる前のサウンドを最も近い形で知ることができる音源だよ。

1963年3月22日にリリースされた、ビートルズのファースト・アルバム『プリーズ・プリーズ・ミー』。全英チャートで30週連続1位を獲得。すでにシングルとして発売されていた4曲を除く10曲が1日でレコーディングされた



## 発言の真実

ポップスやロックンロールなどのレコード制作は短時間で仕上げるのが当たり前だった時代、後々まで名盤となるビートルズのデビュー・アルバム『プリーズ・プリーズ・ミー』とて例外ではなかった。しかし、ビートルズが他のアーティストと違っていたところは、ランチタイムも惜しみ、セッションに励んだことだ。こと、レコーディングにおいては、4人が出せる力を出し切るというスタイルで、作品を磨き、何十年も、否、それ以上、聴き継がれるクオリティの作品を作り出した。そして、プロの作曲家が作った曲を歌うという当時のやり方に反発し、自分たちのヒーローであるチャック・ベリーやバディ・ホリーのように、自分たちが作った曲でデビューすることを譲らなかった。1976年の発言。

## 使えるひとくち英語表現

### the first ～ (最初の～)

The first record I bought was third-rate stuff by a teenage idol.  
I wish it had been something by the Beatles.

(僕が最初買ったレコードは、ティーン・アイドルのくだらないものだった。ビートルズのレコードだったらよかったんだけど)

※ third-rate (三流の、劣った)

capture (とらえる、記録する)  nearest (near[近い]の最上級)

atmosphere (雰囲気)  crowd (観客、群衆)

stomp (足踏みする)  clever (利口な、賢い)

“See you on the Palladium, son! See your name in lights.”

～Anne McGuire

パラディウムで会いましょう、若者よ！ 光り輝く  
あなたの名前を見ましょう。

～アン・マクワイア



To get on the Palladium and all those places we wore the suits and we played their game, but a lot of the time we were thinking, “Ha, we’ll show these people.”

～George Harrison

パラディウムみたいな場所に出るために僕らはスーツを着て彼らのゲームの規則に従った。だけどたいてい心の中で思ってたんだ。「ふん。今に見てろよ、こいつら」ってね。

～ジョージ・ハリスン

## 発言の真実

ロンドン・パラディウムはオックスフォード・ストリートにある、イギリスで最も有名な劇場のひとつ。アン・マグワイアはリンゴの母エルシーの友人。デビューして曲がヒットしたら、親戚や親の友人たちの自分に対する態度が丁寧になり変な気分だったと、『アンソロジー・シリーズ』（185ページ参照）でリンゴは回想しているが、そのときにこのアン・マグワイアの発言も思い出している。

多くの芸能人にとって、パラディウムのような場所に出るのが目標だったに違いないが、音楽界においてはもちろんのこと、これまでの「芸能界はこうあるべき」というような常識もことごとく笑顔でぶち破ってきたビートルズ。ふたつ目のジョージの発言は、彼らの反骨心を如実に表していると言えるだろう。

## 使えるひとくち英語表現

□ play~'s game, play the game of ~

(~の言うとおりにする、望み通りにする)

The government is now planning to restart some nuclear plants. It seems that we are forced to play the game of bureaucrats again. (政府は今、原子力発電所を何基か再稼働しようとしている。どうやらまた、官僚の言うなりにさせられるようだね)

※ nuclear plant (原子力発電所)

※ be forced to~ (~することを強えられる)

□ show (思い知らせる、わからせる)

We thought that if we lasted for two to three years that would be fantastic.

~Ringo Starr

(人気) 2、3年もてばすごいなって、みんな思っていた。 ~リンゴ・スター



デビュー・プロモーション写真の1枚。ジョージの左目にはあざがあり、これはドラマーがビート・ベストからリンゴに代わったことにブライイングした客に、「黙れ！」と言ったジョージが頭突きをくらわされたときにできたもの



THE BEATLES  
PARLOPHONE RECORDS

**THE BEATLES**

PARLOPHONE RECORDS

## 発言の真実

4人とも謙虚で、リンゴは引退後、美容室経営、ジョンとポールは作曲家にでもなるかと考えていたという。そんな4人のパワーは反骨精神だった。古い芸能界の体制に取り込まれるつもりもなかった。ジョージいわく、「必ず何かが起こるという確信が僕らにはあった。成功するにはそれが必要なんだ。弱い立場に置かれ、虐げられた経験のある人なら、誰でも知っているけど、勝ったらみんなが寄ってくる。負けたときはひとりぼっちさ」。過酷な下積みや、浮き沈みの激しい音楽業界を静観していた4人は、地に足が着いていた。だからこそ、作品作りに集中できたのだろう。

## 使えるひとくち英語表現

### last (続く)

I doubt that this extremely hot weather will last much longer.

(この酷暑が長く続くとは思わないけれど)

※ doubt~ (～ということを疑う、～ではないと思う)

※ extremely (極度に)

### fantastic (すばらしい)

I love him. Especially his poems.

~Ringo Starr

最高だよ。特に彼の詩がね。

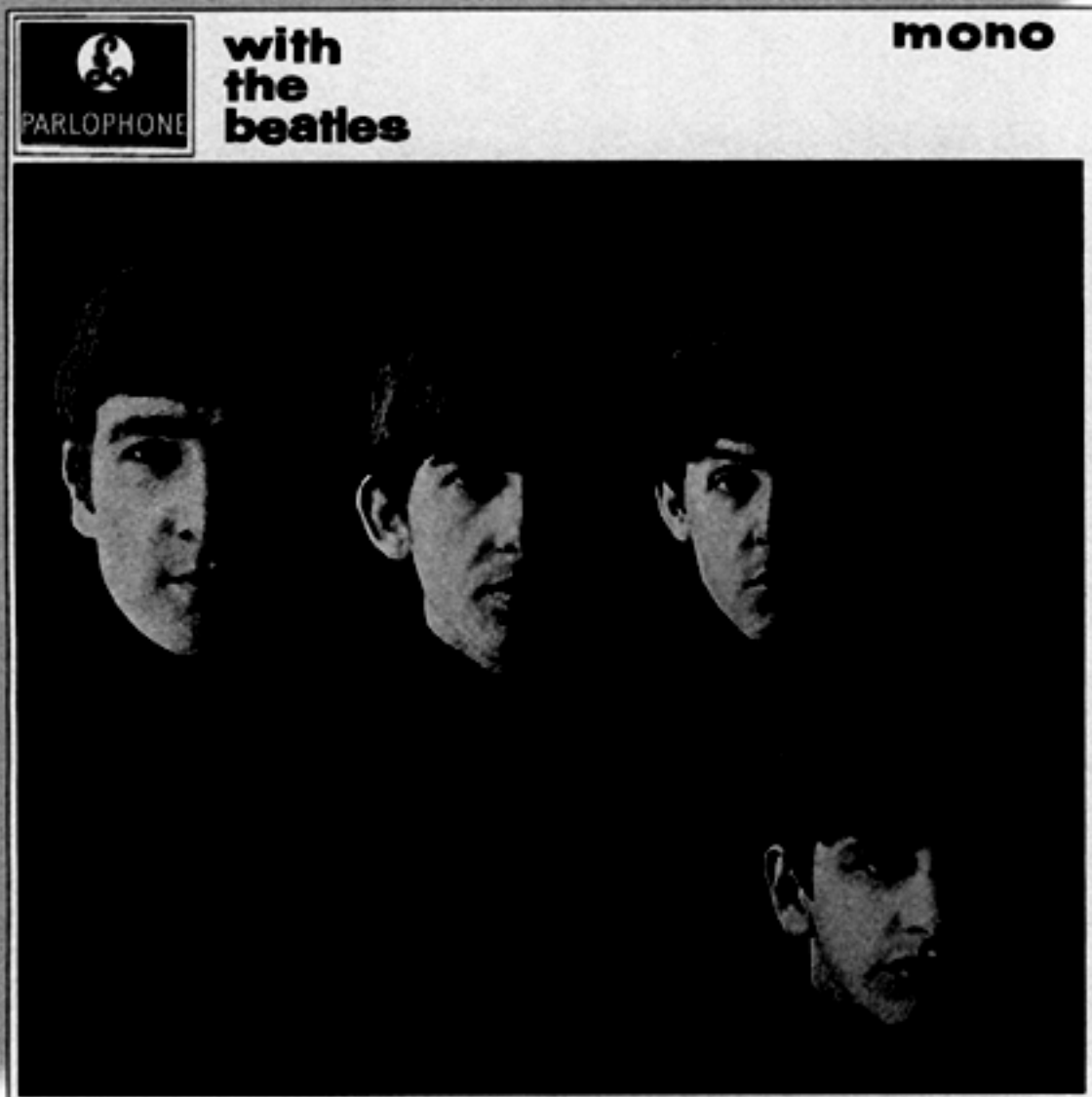
~リンゴ・スター

Press : Beethoven figures in one of your songs. What do you think of Beethoven?

Ringo : I love him. Especially his poems.

記者：ベートーベンが、あなたたちの曲に登場しますね。彼のことをどう思いますか？

リンゴ：最高だよ。特に彼の詩がね。



1963年11月22日に発表されたビートルズ2枚目のアルバム『ウィズ・ザ・ビートルズ』。ブラック&ホワイト、ハーフ・シャドウの写真が、初期ビートルズのイメージを決定づけた。なんとヒット・シングルを収録していない

## 発言の真実

1964年2月7日、ケネディ空港でのアメリカ初の記者会見にて。チャック・ベリー「ロール・オーバー・ベートーベン」(“Roll Over Beethoven”)という曲を歌っているが、どうせクラシックなんか知らないだろう、と思っている記者の「ベートーベンをどう思いますか」という意地悪な質問を逆手に取って。とにかく人を笑わせないと気がすまないサービス精神、そして意地悪な質問には多少ブラック・ジョークを交えるというスタイルで、ビートルズのインタビューは当時の記者たちにとって、たまらなく刺激的なものだった。知的な質問には、しっかり本音で答えるという真摯な姿勢も好感をもたれた。

## 使えるひとくち英語表現

especially (とりわけ、特に)

I love all the songs by the Beatles, especially those composed by John Lennon.

(私はビートルズの曲は全部大好き。特にジョン・レノンが作った曲がね)

※ compose (作曲する、組み立てる)

figure in ~ (～に登場する・現れる)

How can you beat Shakespeare or Beethoven or whatever? I go through all that, and, in my secret heart, I wanted to write something that would take over “We Shall Overcome.”

~John Lennon

どうやったらシェイクスピアやらベートーベンやらを超えることができる？ 俺はそういうのを考え、心の奥底で、「勝利を我らに」（“We Shall Overcome”）を超えるような作品を書きたいと願っていた。

~ジョン・レノン



## 発言の真実

1970年の発言。いつも目標を高く持っていたということの証明となる発言である。ジョンが「世の中を席卷する作品を書きたい」と考えながら作った曲は、平和への賛歌「平和を我等に」(“Give Peace A Chance”)だった。ちなみにジョンの「ハッピー・クリスマス(戦争は終わった)」(“Happy Xmas (War Is Over)”)という曲は、クリスマス・シーズンにビング・クロスビーの「ホワイト・クリスマス」(“White Christmas”)ばかりかかるので、他にもいい曲があればいいのにといい、作った曲だとか。ジョンの「イマジン」(“Imagine”)をはじめとする数々の楽曲は、ある意味シェイクスピアやベートーベンを超える存在となった。世代はもちろん、ジャンルをも飛び越えてしまったのである。

## 使えるひとくち英語表現

### beat (負かす、打破する)

They have lost again! I don't think I will ever in my lifetime see Arsenal beat Manchester United.

(また負けた! 生きている間に、アーセナルがマンチェスター・ユナイテッドに勝つのは見ることはなさそうだな)

### or whatever (その他なんでも) go through ~ (~をよく考える)

### secret ([形容詞] 奥まった、隠れた) take over (乗り越える)

“We Shall Overcome” (「勝利を我らに」。ゴスペル・ソングをもとに作られた曲で、ピート・シーガーらによって広められた。60年代アメリカ公民権運動のテーマ・ソングとなった)

ビートルズの英語  
ザ・ビートルズ・クラブ 著

発行・集英社インターナショナル 発売・集英社  
定価 1,400 円（本体）＋税  
ISBN 978-4-7976-7231-2

ウェブでのご予約・ご注文は [こちらにどうぞ！](#)